

**GBN モニタリング訪問報告書**  
**ウガンダにおける「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」**

報告者：GBN プログラム コーディネーター エマニュエル ワガバ

- **実施日**：2024年4月21日～26日
- **場所**：ムベンデ県、ワキソ県、ブタンバラ県
- **参加者**：GBN 代表1名、GBN プログラムコーディネーター（GBN メンバー）1名、JICA 草の根担当2名、ウガンダ教育省職員、地区教育関係者（ムベンデ、ナンサナ、ブタンバラ）、学校代表（教頭、副教頭、上級女性教師）
- **要旨**：GBN による JICA のモニタリング訪問では、ウガンダの3つの対象地域における MHM プロジェクトの進捗状況とインパクトを評価した。再利用可能な生理用布ナプキンの作り方を教え、更衣室を提供し、教育（MHM、ジェンダー意識、性教育）を行うことに重点を置いたこのプロジェクトは、女子生徒の月経衛生管理、就学率、学業成績の改善において顕著な成功を収めた。しかし、ミシンのメンテナンス、外部資金の終了後のプロジェクトの継続性の確保、より多くの学校に届けるためのプロジェクトの規模拡大などの課題も残っている。今回の訪問では、プロジェクトの効果を維持・拡大するために、政府の継続的な支援、コミュニティの関与、資源配分の必要性が浮き彫りになった。

**【プロジェクトの影響】**

- **肯定的影響**：生徒や教師の月経衛生管理に対する意識の向上、就学率・出席率の改善、女子生徒の自信の向上、仕事につながる縫製技術の習得。
- **課題**：プロジェクト拡大のための限られた資金、ミシンのメンテナンス問題、女子教育に影響を与える早婚率、より広範なジェンダー啓発教育の必要性。

● **学校別の視察**

**<ムベンデ地区>**



◆Gwanika 初等学校：積極的な生徒たちの月経衛生管理クラブ参加、ミシンの追加購入計画、地元のテイラーによる継続的なナプキン作成トレーニング



◆Kasasa 初等学校：管理職の異動（2年間で3人の教頭）と保護者のサポート不足のため、クラブ活動は限定的。これから保護者会で話し合う予定



◆Dyangoma 初等学校：学内のコーヒー栽培からの収入により、プロジェクトの維持に成功

<ワキソ地区>



◆Maganjo Umea 初等学校：生徒数が多く、組織的に活動させることと更衣室の維持が課題



◆Kiroro 初等学校：管理上の課題や異常気象による校舎への被害が進捗を妨げている



◆Kitanda 初等学校：校長の異動を経験。前任の校長が現任の校長にプロジェクトについての確に説明し、教員の異動にもかかわらず持続可能で継続性のあるモデルを示した

<ブタンバラ地区>



◆Bule Umea 初等学校：更衣室が改修された模範的な学校



◆Butende Umea 初等学校：非常に活発に参加している学校

地区と省の視点

<ムベンデ県> シニア県教育担当官、シニア学校検査官とのミーティング



ムベンデ県地方政府：プロジェクトの成功を評価し、拡大と持続可能性の課題を強調した

<ワキソ地区ナンサナ市> Education Officer (ナンサナ地区教育担当官) とのミーティング



ナンサナ市議会にて：プロジェクトに感謝し、より多くの資源、特に水道施設の必要性を強調

### <ブタンバラ県>

Senior Probation and welfare Officer（シニア保護観察官）とのミーティングでは、プロジェクトの成功は評価され、拡大と持続可能性の課題を強調された。他学校へのトレーニングセッションを提案された。

District Education Officer（県教育担当官）とのミーティングでは、長期的なインパクトのためには持続可能性が重要であるとの認識のもと、同担当者は教員の異動などの課題に取り組む姿勢を示した。特にブタンバラでのMHMイニシアチブの継続的な成功を確実にするため、プロジェクトの肯定的な成果を賞賛し、GBNに拡大と資金獲得を模索するよう奨励した。

### <教育省>

Director Basic Secondary Education（中等教育局長）とのミーティングでは、女兒の衛生の重要性と、それに取り組むプロジェクトの重要な役割を強調された。国家カリキュラムにおけるより広範なMHM教育の必要性を認めつつも、現在の政府資源の限界を指摘し、GBNとJICAにパートナーシップを継続するよう促し、MHMとジェンダー意識向上イニシアチブの成功を確保する上で開発パートナーが果たす重要な役割を強調した。同省はまた、チームにジェンダー・ユニットを紹介し、簡単なミーティングを行った後、今後の協力の可能性をよりよく把握するため、technical working committeeへの招待を受けた。



教育省と Gender Unit のメンバー

### 【提言】

- プロジェクト範囲拡大：プロジェクトの範囲を拡大するために、対象地域3県内のさらに多くの学校、ひいてはウガンダ全土にプロジェクトに拡大するための提案書を作成する。
- ミシンの維持管理：地域の技術者と連携し、定期的なミシンのメンテナンスと修理のシステムを確立する。
- 地域社会の関与の強化：政策の範囲内で、保護者や地域社会がMHMのイニシアチブをとるような戦略を策定する。
- カリキュラムのMHM統合を提唱：教育省との対話を継続し、国のカリキュラムに包括的なMHMと性教育を含めるよう提唱する。
- 長期的な資金の確保：本事業の資金提供期間を終えても事業が持続可能であるよう、政府からの配分、国際的なドナー、企業の社会的責任（CSR）イニシアティブなど、多様な資金源を探る。

### 【結論】

- GBNのJICA MHMプロジェクトは、ウガンダの女子生徒の生活を改善する大きな可能性を示した。継続的な支援、革新、協力があれば、このプロジェクトは維持され、ウガンダ全土に月経衛生と女子の教育に永続的な影響を与えるよう拡大することができる。